

お客様各位

2014年12月12日

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			12月8日	12月9日	12月10日	12月11日	12月12日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2.6000	2.5960	2.6170	2.6520	2.6540	+0.0020
	USD/YEN	Spot	120.53	119.54	117.83	119.17	118.71	-0.4600
	EUR/USD	Spot	1.2324	1.2374	1.2447	1.2382	1.2453	+0.0071
	BRL/YEN	Spot	46.35	46.05	45.03	44.93	44.73	-0.2000
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1.54	1.46	1.54	1.12	1.63	+0.5050
		1Year(p.a.)	1.98	1.92	1.95	1.78	2.04	+0.2620
Real Interest	6MTH(p.a.)		12.25	12.21	12.24	12.26	12.26	-0.0015
		1Year(p.a.)	12.47	12.45	12.47	12.49	12.53	+0.0323
Stock	Bovespa		50,274	50,193	49,548	49,862	48,002	-1,859.83
Bond	CDS Brazil 5y		177.86	176.67	188.11	192.13	211.74	+19.6100
	Global 40		106.750	106.750	106.575	106.250	105.750	-0.5000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィスまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	ルセフ大統領	ブラジルにおける更なる雇用創出を誓う。
小売売上高(前月比)	0.5%	1.0%	0.4%		
小売売上高(前年比)	1.0%	1.8%	0.5%		
広義小売売上高(前年比)	-3.2%	-2.6%	-1.2%		
CNI産業信頼感	--	45.2	44.8		

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はU\$1=R\$2.5960で寄り付いた。週初に発表されたブラジル中銀によるアナリスト予想調査では、2014年のGDP成長率が0.19%から0.18%に、2015年が0.77%から0.73%に下方修正された。為替予想は2014年末が2.55で不変となったが、2015年末は2.67から2.70までレアル安方向に修正された。
- 中国の11月輸入が予想に反して前年比大幅のマイナスとなったことや、トニビニ伯中銀総裁が下院の演説で、ブラジル中銀の為替介入プログラムは目標に十分に到達したと発言したことによって、中銀がドル売り介入を弱めるとの見方が強まつたことなどを背景にレアルは2.61台後半まで下落した。しかし、中国の金融規制強化やギリシャ大統領選挙の前倒し決定で政局に対する不安感が広がったことを受けて米国株式が急落すると、一時的にドルが売られて、レアルは週間高値となるU\$1=R\$2.5860まで反発した。だが、リスク資産売り優勢の中でレアル買いは続かず、再び軟調に転じた。
- 週央にはOPECが2015年のOPEC産原油需要見通しを12年ぶりの低水準に引き下げたことから原油価格が続落。ギリシャ政局への懸念を背景にリスク資産売りの動きが広がったことも相まって、レアルも更に下値を試す展開となった。また、先週のCOPOMの議事録において、議事録では金融政策が中立に向かっているとも述べられ、レアルが輸出産業をサポートするというレアル安容認とも取れる表現もあったことから、レアルは2.62近辺まで軟調に推移。米11月小売売上高が8ヶ月振りの大幅な伸びとなると、ドル全面高の展開となり、レアルは直近安値の2.62台後半を下抜けた。更に原油価格が2009年以来始めて60ドルを割り込んだことや、中銀総裁のコメントで為替への言及がなかったこと、為替介入プログラムにも変わった動きが見られなかったことから、レアルに失望売りが広がった。
- レアルは2008年のリーマンショック後についた安値を更新し、週末にかけては2005年4月以降9年9ヶ月振りの安値となるU\$1=R\$2.6770を示現した。ボベスバ指数は9ヶ月振りに48,000を割り込み、ブラジルのCDSも年初来高値を更新した。結果レアルはU\$1=R\$2.6540で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
12/15	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	Dec	0.89%	0.82%
12/15	経済活動(前月比)	Oct	0.20%	0.40%
12/15	経済活動(前年比)	Oct	-0.40%	0.92%
12/15	貿易収支(週次)	Dec-14	--	\$398M
12/15	CNI Consumer Confidence	Dec	--	109.7
12/15	税収	Nov	98700M	106215M
12/15	登録雇用創出合計	Nov	-30000	-30283
12/16	FIPE CPI-週次	Dec-15	0.61%	0.64%
12/16	FGV CPI IPC-S	Dec-15	0.79%	0.77%
12/17	IGP-M Inflation 2nd Preview	Dec	0.75%	0.72%
12/18	長期レート	Jan-01	5.25%	--
12/19	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Dec	0.75%	0.38%
12/19	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Dec	6.42%	6.42%
12/19	失業率	Nov	4.60%	4.70%
12/19	経常収支	Nov	-\$8500M	-\$8131M
12/19	海外直接投資	Nov	\$4500M	\$4979M

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ：2.58—2.70

今週も引き続きレアル軟調の相場展開となった。中国の貿易統計の弱含み、ギリシャの政局不安、OPECの原油需 要見通し引き下げなどによる原油価格の下落などリスクオフ方向の材料が多く出て、ボベスパは9ヶ月振りの安値を更新。レアルは実に9年9ヶ月振りの安値をつけている。ブラジル中銀もレアル安に対処する姿勢を強めておらず、為替介入プログラムは既存のペースを維持し、特段通貨安を懸念する声明も出ていないことから、レアルに失望売りが広がった。

来週はFOMC、日銀金融政策決定会合に注目が集まる。米国経済指標は雇用や小売など強いものが目立っており、FRBによる利上げの期待が高まっている。イエレン議長が記者会見でどの時期の利上げを示唆するかに注目が集まるが、金利先物のマーケットは来年7月の25bp利上げを既に織り込んでいるため、2015年の年央の利上げ開始という既定路線であれば、大きな反応はないと予想される。

ブラジルサイドは大きなイベントはないものの、レアル反発の材料があれば、かなり伸び切った相場だけに戻りも早いと予想される。今の所レアル安に対して静観している中銀の動向には常に注意が必要である。何もなければジリジリとレアルの下値を試す展開を予想する。